平成２９年３月３１日
米澤　潤一

日本国債５０年―回顧と教訓―

（鹿島平和研究所外交研究会講演レジメ）

（財政的側面：奇しくも１０年毎のタブー破りから、平成年間無節操時代へ）

１．厳しい財政節度：制度と運用、理想と現実の乖離

２．公債依存度で概観する財政運営の軌跡

３．財政再建努力挫折の背景に常に見え隠れする対外経済要因

４．プライマリー・バランスに着目した独自の突っ込んだ分析から

（金融的側面：　「御用金」から「金融自由化の先兵」、努力の成功が却って仇に）

５．国債消化の苦労の歴史とその奏功が国債膨張の歯止めを喪失させた皮肉

（まとめ）

６．国債残高累増を招いた３つの実質的要因と得られる教訓

７．進むべき道

（想定される質問に答えて：巷に流布する以下の楽観的俗説への反論）

（１）純債務でみればまだ持続可能な水準

（２）日本国内の貯蓄で賄われている限り心配ない

（３）いざとなればインフレで帳消し

なお講演原稿全文は講師の個人ホーム・ページに掲載してあり
下記ＵＲＬからアクセス可能です（不許複製）
http://www5e.biglobe.ne.jp/~j-yone-1/Kokusai50Kajima.pdf